十四日

一三百文　　　吉野吉水院ニ而

金剛杖壱本

同　　　　　弐人

一百文　　　たら助様買

一七ツ時後少々雨ふり申邪麻ニ也不申候

同

一百文斗　　さいせん

十五日

一弐百文斗　御山さいせん

〆

同泊る

一壱朱　　　吉野一鳥居前

　　　　　　備中屋松蔵

十六日

一多武峰参詣仕候処誠ニ結構

　成伽藍十三重塔有、御納経貰

　談山大神社ト号ス

同

一岡寺江参詣、御納経貰ふ

同

一聖徳皇太子　橘寺

　御誕生所　御納経貰ふ

十六日　日本三ケ所之霊仏也

一安倍山文殊尊様参詣

御詠歌ニ曰、新四国十三番

南無文殊　三世の仏の　母ときく

我も子なれは　乳をあたへられ貰う

同

一此寺に安倍晴明仲磨

両人古跡有

十六日

一昼飯多武峯少々下ニ而頼候処

　味噌汁沢庵ト呉ル

一安倍寺ニ而米壱ツかみ呉ル

　　　　　　　　御納経出ル

同泊り　木賃米代共

一四百八拾文　　安倍文殊前

　　　　　　　　きし田や

十七日

八ばん

一長谷寺観音様参詣仕候処

毎年四月廿七日御開帳ニ而

幸我等其日ニ向い御尊像奉拝候

御丈弐丈六尺立像十一面様也

一壱之門■書くかいろふ百卅六間有

　此間ニ悉く大提灯三ツ宛釣惣〆

　四百有余、其外塔堂伽藍坊守

　至迄不残結構本堂者掛造ニ而

　舞台者京都清水同様ニ而境色

　宜敷地ニ御座候、夫■慈恩寺村へ

　戻り昼弁当仕候、沢庵茶等

　三条鍛冶ニ而施待ニ預り申候

同

一三輪明神様参詣、此社も

　相応之結構之地ニ御座候

同

一五拾文　万能膏壱つ　追分村

同

一五拾文　御納経御札等　初瀬寺

同泊り　木賃米代

一五百廿文　　　法隆寺大門前泊り

四月十八日

一百九拾御納経六ケ所貰ふ

同

一竜田明神様参詣、各高キ宮ニ

　候得共割合ニハ麁末之社ニ御座候

一竜田川紅葉右社■四丁斗

　西也、紅葉秋は随分宜敷様子

　御座候

同

一法隆寺伽藍聖徳太子様

　御建立ニ而古キ物ニ御座候得ハ誠ニ結構之

　堂塔伽藍ニ御座候、当寺の御仏者不

　残黄金仏ニ御座候、中ニも天竺仏

　四十八体有之、内壱体為拝

　跡者宝蔵納り有由被申候

一西之堂ト申薬師如来之有、六角

　之堂ニ剣類鏡等奉納之事也

　御堂一はいニ御座候、両様共納経貰ふ

一小泉之庚申如来参詣仕一国一宇

　之地也、中々結構之地也

一同所三輪奈良吉ト申職人ニ札挟ミ

　桐之木ニ而両人壱ツツゝ預奇附、難有事也

同

一郡山城下見物致候

同

一奈良南円堂参詣、納経貰ふ

一猿沢之池見物、鯉鮒多分人ニとられ

　最早少々残り居候得共只今者

　人ニをそろしがり申候

同

一右南円堂境内ニ而弁当致候処、女

　小供両三人参り候而弁当余分も持参候哉、握り

　飯四ツ高野豆腐砂糖たキ弐切呉ル、誠ニ

　結構之味ニ御座候、同所ニ而一時斗昼寝仕候

同

一春日社へ参詣仕候

同

一手向山八幡様参詣

同

一三月堂本尊千手観世音様

同

一二月堂本尊十一面観音様

同

一大仏大かね

同

一大仏様

同泊り

一奈良■八丁斗東ニ当り

　白ごふじ村と申所之善助方ニ而

　一泊り頼入候処米も弁当迄沢山被下候

　難有事ニ御座候、村ニ而頭分之人ニ御座候

十九日

一右白ごふじ■奈張越ニ而伊勢へ

　参詣仕候、奈良■な張迄山中

　七り半御座候、難渋之道ニ御座候

一十九日泊り、伊賀奈張郡新田井筒屋方ニ止宿

　五百卅文宿料払

一廿日、夫■阿上村ト申処迄壱り

　夫■あを山三里、此峠伊賀伊勢

　国境也、此所ニ伊賀茶屋弐軒有

　伊勢茶屋壱軒有、此青山峠と申ハ

　木壱本もなし、四五り斗も青草斗也、夫故

　青山峠と号ス也、其日都合拾壱り半ニ

　伊勢六軒迄出る

一廿日泊り、六軒窪田屋ニ而旅籠壱朱て泊り

一廿一日、昼弁当明星村安養禅寺庭ニ而

　たべ申候、彼寺廃寺ニ相成留主居坊主

　壱僧罷在竹之子汁沢庵等呉ル

一廿一日、八ツ時外宮様遂拝礼申候

　夫■二見浦婦夫岩日之入拝礼

　同所貝売小屋幸成哉両三軒も

　留主ニ付中ニも工合能よふな所々ニ而

　夕朝共いり粉ニ而一泊り致候得共

格別不自由ニも無之候、壱朱三百文

宿料助り申候、翌日昼飯も薩摩

芋七拾文ニ而相立申候

一廿二日朝二見浦ニ而日之出拝礼、誠ニ

　明ニ御座候、少し左之方ニ冨士山も見ヘ申候

　日様御上り被遊後者見へ不申候

同

一夫■朝熊嶽へ登山仕候

同

一夫■内宮様宇治橋へ下り

同

　内宮様遂拝礼申候、両宮共末社

　被廃、風之宮雨之宮高之宮斗御座候

同

一天の岩戸被廃候

同

一両宮二見朝熊さいせん〆弐百文斗

同

一三拾五文、貝代

同

一四拾文、櫛代

同

一壱朱、万金丹

同

一壱朱ト弐拾文御祓様代

同泊り

一壱朱ト百文、田丸扇や仙蔵

十八日郡山ニ而

一壱朱半、紙帳代二ツ割

八日京都ニ而

一五百五拾文、脚伴壱足古手也

四月廿二日泊りニ而田丸宿扇や仙蔵

一九拾文、わらんじ壱足

田丸次之村はら村

一手引観世音、御詠歌ニ曰

　熊の路を道引たまへ観世音

　清キ不浄の人は選ます

同

一柳原順礼手引観世音様参詣

　右二ケ所者御納経貰ふ

廿三日

一四拾文、諸造用田丸■三瀬迄道法〆六里半

同

一三瀬邑安平方ニ而施待宿貰ふ、八ツ半時

　ニ候得共格別雨ふりニ而難義、無拠頼む

同

一米代三百文払、同人方へ

同

一此日小阪二ツ越ス

廿四日中天気、朝三瀬■舟渡し有之

　次ニ峠まゆみト申宿有、次ニ伊勢ト

　紀伊ト国境也、此所梅ケ谷小阪ト申坂有

　夫■長嶋迄町家也、夫■阪二ツ越て

　どふぜ村卯吉ト申族頼泊貰ふ

　其隣家庄屋ニ而米壱升買、代弐匁五分

　そら豆生三四合斗貰ふ、飯まぜ

　誠ニ味能悦申候、此日造用〆弐百文斗

　峠〆四ツ、道法〆七り斗

廿五日上天気、朝峠壱ツ越ス、夫■三浦へ

　出、又はしかみ坂馬瀬へ出候、次ニふなつ村

　楠三郎兵衛ト申大家有、此ニ而昼飯

　貰ふ、次ニ尾鷲ト申町家有、同所八郎兵衛ト申

極大家有、是ニ而米弐合斗貰ふ、次之

　まごせ阪ト申坂有、此峠左之峰ニ

　天狗迚大岩有、此麓ニ大師御作之

　石仏有ト申事ニ御座候

　是尾鷲之前也

　八鬼山峠ニ日輪寺有、本尊

　三宝大荒神様、御納経貰ふ

　弐拾四銅納候也、此峠上り五十丁

　下り四十丁余、上下共難所也

　次三木ト宿有、同所亀右衛門ニ而

　一宿頼、米五合貰代壱匁也、七合斗

　諸所ニ而貰ふ、そら豆も五合斗貰ふ

一小銭七八分斗も貰ふ、此日諸用〆

　斗百文斗、道法〆五十丁、壱人ニ而七里半斗

　峠四ツ越ス

廿六日、尾わし■曽弥迄二り之間小阪二ツ

　此阪ハ近辺之者ハ阪なしト申所也